



# 図書室から新着本のご案内 7月

書名	著者名	ラベル番号	内容
光媒の花	道尾 秀介	9 - ミ	もう、駄目だと思った。それでも世界は、続いていた 少女は無限の想像力でこの世界を生き延び、少年はたった一つの思い出にしがみつく。一匹の蝶が見た悲しみの先に広がる光景とは...渾身の連作群像劇。 <b>第23回山本周五郎賞受賞作</b>
小暮写真館	宮部 みゆき	9 - ミ	もう会えないなんて言うなよ。あなたは思い出す。どれだけ小説を求めていたか...。物語のすべてが詰まった700ページの宝箱。 著者3年ぶりの現代エンターテインメント長編。
死ねばいいのに	京極 夏彦	9 - キ	無礼な男が、死んだ女のことを尋ねる。その言葉に暴かれる嘘、晒け出される業、剥き出しの真実。この世に不思議なことがただひとつあるとすれば、それは...。京極夏彦が紡ぐ究極のミステリー。
感応連鎖	朝倉 かすみ	9 - ア	膨張し、肥満し続けるわたしのからだ。やり切れぬ思いを解き放つのは、誰？ 体重100キロの16歳が「夢の娘」になるまで。
四十九日のレシピ	伊吹 有喜	9 - イ	熱田家の母・乙美が亡くなった。氣力を失った父・良平のもとを訪れたのは、真っ黒に日焼けした金髪の女の子・井本。彼女は、乙美が作っていた、ある「レシピ」の存在を、良平に伝えにきたのだった。家族を包むあたたかな奇跡に、涙があふれる感動の物語

## 第56回 青少年読書感想文全国コンクール 課題図書

ミリーのすてきなぼうし 小学校低学年(1.2年生)	きたむら さとし	j9 - キ	おきにいりのぼうしがほしいミリーですが、おかねをもっていません。でも、ミリーはとびきりすてきなぼうしをてにいれました。ミリーだけのとくべつなぼうし！そのぼうしとは...
いじわるなないしょオバケ 小学校中学年(1.2年生)	ティエリー・ロブレヒト	j9 - ロ	うっかりママのたいせつなしんじゅのくびかざりをこわしてしまったサラ。ほんとうのことがいえず、ないしょにしていたら...くちからオバケがとびだしちゃった！子どものちょっとした心のつまずきによりそう愛らしいイラストのオランダ絵本。

<p>点子ちゃん 小学校低学年（3.4年生）</p>	野田 道子	j9-ノ	<p>点子ちゃんは目の見えない妖精みたいな転校生。いつも点字の本ばかり読んでいるから“点子ちゃん”。目が見えない世界って、どんなだろう？点子ちゃんをめぐって、クラスは大さわぎ。このお話の主人公、泉川カレンは3歳のとき、重い病気にかかり全盲になりました。アメリカに引っ越してから母に点字を習い、漢字の点字も母の手作りテキストで学びました。</p>
<p>ともだちのしるしだよ 小学校中学年（3.4年生）</p>	カレン・リン・ウィリアムズ カードラ・モハメッド	j9-ウ	<p>なんみんキャンプにくらす、リナとフェローザ。ふたりのしょうじょがかたほうずつみつけたいっそくのサンダルは、かけがえのないゆうじょうのあかしとなったのでした。「なぜ、わたしたちみたいなこどもをえがいたほんがないの？」という、ひとりのなんみんのしょうじょのことばをきっかけにうまれたものがたり。いたばし国際絵本翻訳大賞受賞作品。</p>
<p>建具職人の千太郎 小学校高学年（5.6年生）</p>	岩崎 京子	j9-イ	<p>江戸時代の終わりごろ。千太郎は、わずか七歳で、奉公に出されることになった。奉公先は、鶴見村(いまの神奈川県横浜市鶴見区)の建具屋「建喜」。まだ、友だちと遊んでいたいさかりの、千太郎には、建具職人になろうだなんて気は、さらさらない。だが、いつしか自分も、腕のよい建具職人になりたい、と思うようになる。</p>
<p>リキシャ ガール 小学校高学年（5.6年生）</p>	ミタリ・パーキンス	j9-バ	<p>10歳の女の子ナイマ、貧しくともおたがいを大切に思い合う家族、そして、自分の力で変わろうとしている人びとの夢と現実と希望の物語。</p>

## 平成22年度 神奈川県夏のすいせん図書

<p>ゴリラのウーゴひとりでおつかい 小学校低学年（1.2年生）</p>	磯 みゆき	j9-イ	<p>きいて、きいて！ぼくね、これから、はじめてのおつかいに行くんだよ。しかもたったひとりでさ！すごいでしょ！かっこいいでしょ！ぼく、きっと、なんでもひとりでできちゃうんだよ。</p>
<p>なぜ戦争はよくないか 小学校中学年（3.4年生）</p>	アリス・ウォーカー	j9-ウ	<p>つねに弱いものの立場にたって、社会に問いかけてきたアリス・ウォーカーが、2001年9月11日のテロ攻撃に対して、自国アメリカがおこなった報復の現実を知る。そこには、平和だった毎日の暮らしを破壊され、親を亡くし、さまよう子どもたちの姿があった。「戦争」が何なのか、わからないままに巻きこまれ、傷つく子どもたちをこれ以上ふやしたくない</p>
<p>空と大地と虹色イルカ 小学校中学年（5.6年生）</p>	ながす みつき	j9-ナ	<p>船べりから見おろすと、海は真っ赤な血の色にそまっていた。その中からとつぜん、巨大な、悪魔のような、黒い背びれが海面を割った。「ホオジロザメじゃ！」オジイがうめいた。第17回小川未明文学賞大賞受賞作品。</p>